

東日本ユニオンにいがた

JR東日本労働組合新潟地方本部

2017年9月1日発行

第3号 (通巻第67号)

発行者: 星山 圭 編集者: 教育・広報部

http://www.geocities.jp/higashinihonunion_niigata/

びゅうプラザの業務移管等を提案

「びゅうプラザの業務運営体制の見直し」の提案を受ける

新潟地本は8月16日に団体交渉を行い、支社側より2017年度「システムチェンジ・コストダウン計画」の実施として、「びゅうプラザの業務運営体制の見直し」の提案を受けました。

旅行業界を取り巻く環境やお客さまニーズの変化に対応するため、びゅうプラザの業務運営体制の見直しを行うとして、長岡駅のびゅうプラザを(株)びゅうトラベルサービスへ移管する等としたものです。

旅行業に対する会社の考え方は

支社側は施策の提案に日旅行センターやびゅうあたり、経営構想V実現のプラザ青葉通り店の運営のために観光流動の促進を行うっており、今回はびゅう前提の方針であるとしま

また近年の構造的な変化として、ネットを利用した販売が増え、JR東日本でもweb販売やダイナミックレールパックを展開、エージェントも(株)びゅうトラベルサービスへ移管したことを挙げました。

交渉団は、支社内に複数あるびゅうプラザの中で、長岡駅を業務移管する理由を質しました。

支社側は、(株)びゅうトラベルサービス自身が訪



旅行業を担う社員の将来展望は

施策実施に伴うびゅうプラザ長岡駅の店舗運営の変化を問うと支社側は、場所は現在と変わらず、

また、運営は(株)びゅうトラベルサービスで考えて行くことになるとし、所長などの人員配置は精査段階としました。

長岡の△18という提案に伴う社員の動きを問うと、(株)びゅうトラベルサービスで採用してもらい、新規採用をとってもらいました。

そのうえでスタートダッシュが大事であり、JRからの出向もありえると

退職を迎えた先輩の新たな旅立ちを祝福

7月14日、アトリウム長岡において、今年度4月に退職された二名の組合員

の商品も生まれてくるとの考えを示しました。

ネットを活用した販売へのシフトという説明により平成25年にセールスを廃しエージェントとした経緯があることから、説明通りにお客さまがネット販売へ移っているのかを質しました。

支社側は、ネット販売による売上状況について、全社的に10%を目指しているとして、引き続き比率を上げていく努力は必要としました。

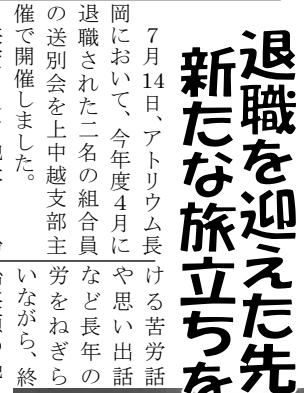
そのうえで商品企画の販促や宣伝はJRも連携していくとしました。

が、旅行業専門の社員となるとしました。

グリーンスタッフについては、JRのグリーンスタッフのまま(株)びゅうトラベルサービスと契約することはないと明らかにしました。またエルダー雇用先となるのかとの問いに対して支社側は、可能性はあると答えました。

びゅうプラザで減らされる要員により、駅の人員を増やすことはないのかを質しましたが、支社側は駅の標準数に変更はないとの回答を示しました。

びゅうプラザで働く社員からは「30年間旅行業で努力してきたがずっと翻弄されてきた」「様々な施策があり一生懸命努力してきたがモチベーションは上がらない」との声が上がっていると訴え、このような社員の想いを会社として分かっているのか問



お二方の鉄道人生にお

始笑顔の絶えない送別会となりました。

お二方は現在、エルダー社員として、そして引き続き東日本ユニオンの組合員として活躍中です。

(上中越支部 投稿)

今後もしやさいエルダー社員制度にしたいために、支部全体でお二人を支えながら共に奮闘していきます。

びゅうプラザの将来像を巡り議論



新潟地本は8月22日、第1回営業職場組合員集会を開催しました。

8月16日の団体交渉で提案を受けた「びゅうプラザの業務運営体制の見直し」を中心に意見を出し合い議論を行いました。

現場社員も、地域のお客さまも蔑ろにする施策だとして、不満や疑問、不安の声があがりました。

組合員との議論を通じて職場からたたかいたい創り出していきます。